

青年卓越技能章を励みに安比塗の技を磨く

29年度県青年卓越技能章受章

工藤理沙さん(右)

くづつ・りさ 38歳 曲田横間

八幡理恵子さん

やはた・りえこ 34歳 苗石田



奈良県出身の工藤理沙さんは、市漆工技術研究センターで研修を受け、助手を務めた後、平成18年4月から安比塗漆器工房で漆器制作・販売に携わる。昨年、安比塗企業組合を設立し、代表理事を務める。

二戸市浄法寺町出身の八幡理恵子さんは、市漆工技術研究センターで研修を受け、18年4月から同センターで助手を務める。30年4月からは技師として研修生の指導に当たる。

「受章はうれしい気持ちと、身の引き締まる思いでした」と振り返るのは、昨年の11月15日に青年卓越技能章を受章した工藤理沙さんと八幡理恵子さん。

愛知県の大学で初めて漆を扱った工藤さんは、温度や湿度などで仕上がりが変化する漆器制作に魅力を感じました。市漆工技術研究センターで研さんを積み、安比塗漆器工房で塗師として従事。青年卓越技能者の審査で、特に難しいといわれる本朱の上塗技術に優れていると評価されました。表彰式では、現役で活躍する70代の卓越技能者



「安比塗My first展」で実演する工藤さん(29年2月9日、奈良市)



漆器の中塗工程を研修生に指導する八幡さん(右)

の姿が格好よく見え「私もまだまだ上を目指したい」と気持ち新たにします。

短大でデザインを学び、同センターで初めて漆を扱った八幡さんは「漆で造形する作業が面白く、もっとここで技術を学びたい」と、塗師を志しました。石こう・粘土乾漆の技法が評価され青年卓越技能章を受章しました。「富士原文隆先生(元同センター副所長や研修生、家族の支えに感謝しています。今後はさらに実力を付け、皆さんに認めて頂けるものを作りたい」と意欲を燃やします。

編集後記

▽キラリ輝人の二人を取材中、伝統工芸士に認定されていたことが判明。1年以上前にさかのぼりますが、おわびの意味も込めて紹介させていただきます。

平成29年2月25日、ご本人を含め5人の市安代漆工技術研究センター修了生は(一財)伝統的工芸品産業振興協会が実施する審査に合格し、伝統工芸士に認定されました。
・藤森 由美子さん 荒屋新町
・富士原 智子さん 畑区
・坂根 雄心さん 盛岡市
今後のご活躍をお祈りいたします。
▽日に日に暖かくなり、八幡平国立公園への道路が開通して、雪の回廊を見ることができるよう季節を迎えます。昨年の雪壁の高さは最大7.5m。今年はその高さを超えるでしょうか。今から楽しみです。



昨年撮影した雪の回廊

▽スパルタキャンプ修了生が続々と起業し、今号に掲載した高橋さんで3社目。専門的なことは分かりませんが、皆さんもよく知る「食ベログ」みたいなアプリが開発できるプログラミングを学ぶようです。先月は応募の競争倍率が12倍超の人氣に。今後、どのような展開を見せていくのか楽しみです。

(多)

(龍)